

【担当教員名】 村山伸子	対象学年	3	対象学科	健康
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	45

【<概要>又は<一般目標：G I O>】
公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養マネジメントの基本的な理論と手法について学ぶ。特に、地域マネジメントの理論、地域アセスメント、評価の手法について、シミュレーションを行いながら、参加型で学ぶ。

- 【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】
1. 公衆栄養マネジメントの概念と枠組みについて、イメージし、記述できる。
 2. 地域栄養アセスメントにおいて、質的調査法（住民参加型でニーズを把握する手法）を理解し、使うことができる。
 3. 地域栄養アセスメントにおいて、量的調査方法を理解し、使うことができる。
 4. 栄養疫学を用いた、因果関係の把握ができる。
 5. 公衆栄養全体計画に基づいた、事業計画が立案できる。
 6. 公衆栄養全体計画の評価と、事業の評価をデザインできる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題
1	実習のオリエンテーション、住民参加型の計画策定事例	1	講義、ディスカッション
2	地域栄養調査の手法① 質的方法の企画と実施	2	ワークショップ
3	地域栄養調査の手法① 質的方法の集計と分析	2	ワークショップ
4	地域栄養調査の手法② 量的方法の企画、指標の決定	3	ワークショップ
5	地域栄養調査の手法② 食事調査の調査票作成	3,4	ワークショップ
6	地域栄養調査の手法② 食生活、身体調査の調査票作成	3,4	ワークショップ
7	地域栄養調査の分析手法① 食事調査結果の分析・評価手法（食事レベル、料理レベル、食品レベル、栄養素レベル）	3,4	ワークショップ
8	地域栄養調査の分析手法① 食生活、身体調査結果の分析・評価手法、要因間の関係の分析	3,4	ワークショップ
9	栄養疫学⑤ 要因の関係図、目標および現状値の整理	3,4	ワークショップ
10	公衆栄養全体計画と事業計画への展開（課題、目標の優先順位の設定）	5	ワークショップ
11	公衆栄養プログラム（事業）の実施過程のマネジメント（地域資源のマネジメント、コミュニケーションの管理、行動科学理論の応用）の計画	5	ワークショップ
12	評価とモニタリング手法（プロセス評価）の計画書作成	6	ワークショップ
13	評価とモニタリング手法（影響、結果評価、行政評価、経済評価）の計画書作成	6	ワークショップ
14	自己評価と学習したことの意見交換	1-6	ディスカッション

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	公衆栄養学Ⅱと兼用			
参考書	公衆栄養学Ⅱと兼用			
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席40% 積極的参加20% レポート40%	参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。論理的に考えることに慣れること。